

## 当社の安全に対する取り組み

東北紙工株式会社 総務部部长 佐々木 俊博

当社は2022年4月で創業112年を迎えた総合印刷会社です。

「印刷」のイメージは様々と思いますが、近年の印刷加工技術は装置産業とも言われており、ハード・ソフト両面から自動化へと進歩を遂げようとしています。そのような環境の中で仙台本社では紙媒体に係わる商業印刷物を製造し、栗原市の高清水工場ではフィルム基材の印刷加工を行っており、多種多様な印刷物にワンストップで対応出来る事が強みです。

近年は立て続けに起きる地震、台風や大雨、そして新型コロナウイルス等、事業所としても対応しなければならない事が次々と発生し、より安全に対する重要性を強く認識しているところです。

当社も歴史のある工場であり、建物の老朽化は避けられません。思い起こせば2011年3月11日に発生した東日本大震災時は一部建物の壁が崩れたり、何トンもある印刷機がずれたり様々な被害が及びましたが、日頃の避難訓練通り一斉に指定避難場所へ避難し、幸いにも全従業員の無事が確認出来ました。その時の教訓を生かし、その後の地震対策にも生かされていると考えております。

しかしながら、一部倉庫等の建屋は地震被害や経年劣化による安全上の観点から取り壊す事となり、2022年12月に新築するに至っています。

このような状況も踏まえ、当社では安全衛生委員会を組織しており、また推進委員も含め各委員が職場巡回し、指摘事項や対策立案等を全従業員で共有しています。従業員の健康面の確認や意見徴収も行う中で、特にここ最近では新型コロナウイルスによる従業員、家族等の感染が発生しており、特に家族から従業員が感染する例が多く、対策に苦慮しているところです。目には見えないウイルスはどれだけ対策してもこれで大丈夫とは言えず、当然のことながら、各所へアルコール消毒液の設置、マスク着用、可能な部署は常時換気、体温計測報告、食堂からの食事場所分散や黙食など実施していますが、当社は特に製造工場の為、感染者や濃厚接触者

が発生してしまうとオペレーティングや製造工程に支障を来しお客様にまでご迷惑をお掛けする事態となってしまう為、疑わしきは会社にて抗原検査を実施している他、可能な限りリモートワークやWEB商談を実施するよう推奨しているところです。

当社は東北地方を中心に、関東に至るまで様々な業種のお客様と取引させて頂いており、社会的な供給責任も負っています。会社及び従業員の安全を守ることが引いては社会、取引先様にご満足頂ける品質の製品を提供できるものと考えており、今後、益々の危機管理の重要性を認識し取り組んで参ります。



東北紙工株式会社仙台本社工場



2011年3月11日 東日本大震災による被害



2022年12月完成の新倉庫